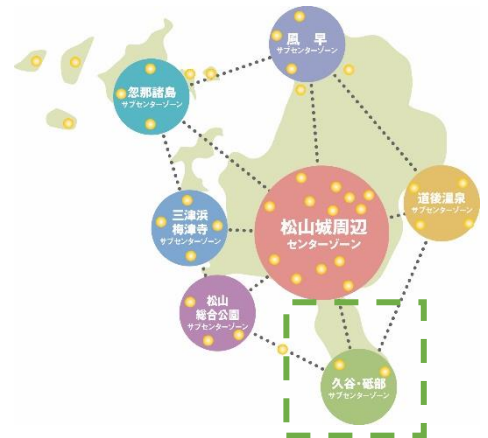


フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ 事業概要

1.背景

松山市は、豊富な地域資源を生かし、市内全体を屋根のない博物館に見立て、回遊性の高い、物語のあるまちを目指す「フィールドミュージアム構想」を進めています。

市の南部に位置する久谷地域は、豊かな里山の自然に囲まれ、四国霊場の札所や遍路にまつわる多くの資源が残っています。遍路の里として、フィールドミュージアムのサブセンターゾーンの一つです。



2.目的

久谷地区の地域特性や資源に関して歴史や価値を研究、再評価し、有効に活用し、地域を活性化するほか、若い世代が地元のまちづくりへ参画するよう促し、持続的な発展を目指します。

3.事業主体

フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ運営委員会
(愛媛大学社会共創学部、久谷地区まちづくり協議会、くぼの里山会、松山市)

4.事業概要

久谷地区全体を「フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ」とし、行政と地域まちづくり団体、地元大学が連携します。

(1)くたに学

久谷地区の歴史的建造物などを生かし、大学生が「伊予八百八狸物語」「遍路文化」など地域資源の講義を行います。

地域の人たちからの聞き取りや資料調査で、大学生が学んだ知識を、学生の視点で、一般の方や子どもたちに講義し、知識と学びの循環を生み出します。

(2)フィールドミュージアムアカデミー 大学祭

まちづくり協議会(地元住民)と大学生が協働し、里山の豊かな自然や食材、地域資源を生かした地域のにぎわいを、創り出せる交流イベントを企画、運営します。



旧遍路宿「坂本屋」

(3)くたにラボ

地域資源の解説板の設置をはじめ、アクセスしやすくし、長く滞留してもらうための整備などに関して、大学生と住民が適切な内容や効果的な手法を研究し、アイデアを出し合って実現していきます。

また、クラウドファンディングなど民間資金獲得の手法を検討し、維持管理を含めた持続的で、発展的な整備を研究します。



狸の形の解説板



八百八狸伝説の祠



国指定重要文化財 渡部家住宅



渡部家住宅でのまちづくり協議会の活動

5.スケジュール

R4.4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
	●開校式	フィールドワーク				くたに学			
		くたにラボ(研究)					●フィールドミュージアムアカデミー		大学祭
						くたにラボ(整備)			